

# ●ヨーロッパ

# おしどり漫遊記

中西 勝・咲子 〔洋画・二紀会〕



トルコ・イスタンブールにて 右中西勝氏

光陰矢の如し!! はじめは「日本を離れるって、ものすごくいい気持ちのものやな」そのうちに「今頃、連中はイイ調子でやってやるんやろな、チェッ!!」ところが今や「エイやけくそや」と我ながら、妙な言葉をつぶやくようになっております。この辺で急キヨ帰国すれば傷は浅いが、この関をこすとほんまのミイラになるんでしょね。

アガデルでミイラになりかけたのを、野江(大阪)のオカアちゃんオトウちゃんのこと考えてからも立ちもどり、グルミンのらくだ市、タフロウトの神秘的な女たちをたずぬ。マラケシ市に再び戻ってから、また、おもしろかった年に一度のモロッコ民族音楽祭では、なじみぶかいベルベルのおどりと唄を、水きわだった演出と、スバラシイ舞台(旧王宮の庭園)の上で満喫し、ファンタジアとよぶ勇壮な騎馬戦も見物しました。

それから、日本語を話す老探険家と若いプロ写真家夫妻(いずれもドイツ人)と一緒に、ロバをやとって、ウリカの谷と呼ばれる神秘的な高原に、五千年ぐらい昔の人類(五〇〇〇年ダヨ)がのこした、岩枝にほられた原始的な絵画をさがしに行きました。まだ世界中の人でもごく少数の人しかみてないそうで、日本じゃモチロン私達をはじめてじやないかしら。それは、人跡末踏の草原の中に、巨大な規模で彫りつけられ、私達は二日ばかりで3カ所程のその場所を発見することができました。ロバからおっこちたり、夜道に千尋の谷をわたったり、



トルコにて中西咲子さん

ちょっと冒険だったけど。「ウリカの谷のこの美しさを、どうして日本の皆さんに知らせることができらるだろう」と、うちのマサルさんも女学生のような表現をして喜んでいました。昔の人は、気持ちのいい、高いところばかり住んだのに、今の人間は、たいらでクサイとこぼっかり住むね」とご兩人だけは、空中にでも住んでるようないい

ス記念像に関するメッセージと写真」をおおづかりしてまいりましたが、これは日本大使館の和田書記官の同道で、市長をおたずねし、三年八カ月ぶりにお役目を果たしました。青木氏にどうぞよろしくお伝えください。市長さんから、勝さんには、新旧リスボン市に関する沢山の複製や、本、またお咲さんには、金のブローチをお土産にいただいて兩人とも大喜び。

市内のモンサント公園内にある市立キャンプ場は、名実ともに世界一の設備と環境。キャンプ旅行者誰も異議を唱える者もありませんが、これが、リスボン市長さんのご自慢のひとつ。私達がそこに滞在していると聞いて、市長さんも大喜び。

さて、このモンサントのキャンプ場は、この後、思いがけない贈り物を私達のために準備していてくれて、忘れたい場所となりました。それというのが、このキャンプ場で知り合いになった、リスボン市民のジョセ及びジョアキンニ家族の方がどういう風の吹きまわしか、中西勝の絵にホレ込んで、リスボンで展覧会をしると、一切切お世話をして下さったものです。この人は、市のセンターに立派な家を持っていますが、テント付きキャンパーをキャンプ場に置きっぱなしにして、週末の三日間をここでキャンプ生活をしています。八月に入ると、このキャンパーを引っぱって外国旅行に出かけるという羨しいご身分。

展覧会は、国立美術協会のギャラリーで六月三十日から、七月九日まで十日間、大勢の観覧者でした。テレビのニュース、同封の新聞記事等華々しくとり上げられたようです。キャンプ場まで映画を撮りにきて、本式のドキュメント映画の一コマにも入れられるかもしれないそうです。ロスアンゼルスでの個展のとき、U・S・L大学の美術の先生が「写実の技術は最高の域」とほめて下さったので、大勢の美術学生が見にきました。ここでも、美術学校の先生が「グラウンデアルティスト」といつてらしたと聞いて、学生さんが大勢見にきました。

方をしていきます。

さて、私達は多少の人間ばなれ、イヤ、機械ばなれし気分、ヨーロッパに戻ってまいりました。セビリヤに着きまずとお祭りで、お寺のお祭りに軍隊の行進があるのにまぶびっくり、兵隊さんの顔が「カワイソウニ、すっかりポルトになっちゃってるな」と、今さらながら浮世の味気なさを味わう仕末。ポルトガルに入り、リスボンに着くと、また、聖アントニオのお祭り。夜の行列があるのと聞いたけど、また兵隊さんが出るんじゃないかと、見にゆかないでポルトワインのみながら、キャンプ場のテレビで見物したら、これはまた、ずっとずっと庶民的で楽しく、素晴らしく「行かなくて損した。モロッコほけのタタリだな」と残念がりました。今のところ、ポルトガルはスペインより、ずっとずっと人間の味がして好感を持っています。ちょっとデンマークみたい。

神戸新聞社の青木重雄氏（現在白鶴美術館事務局長）のお計らいで、神戸市長からリスボン市長への「モラエ



服部大使をはじめ、滞リスボン日本人の方々も大方いらして下さり、おかげで日本語を思いきりしゃべることができて、日本料理もごちそうになってうれしかった。そして、何よりありがたかったのは、ニューヨーク出航以来一文の収入もなく一年二カ月を漫遊したので、すっかりさびしくなった軍資金に大いにプラスしたこと。ですが大丈夫、絶対日本へ持って帰りたい作品は「売れたら困る」と隠しておきましたから。ナントモハヤ、旅もこう永くなると、厚かましいこと限りなし。マスコミの世界や官僚制度の中では、いつでも妙に不自然なワクがあり、ベニスでみたビエンナーレはじめ、各地のモダンアートと称するものを見る度にこのワクが大変気になったのですが、帰国したら「人間と真実」の永遠のテーマを、いろんな角度からもつとと深く（ワクなし

で）考えてゆきたいと二人で話しております。只今、展覧会の緊張を再びモロッコのおんぴりに戻してジョセ一家、ジョアキン一家のポルトガルの友情の中でひと休み、やけくそや、のんびりゆこうと昨日は、アポロ11号月世界到着のテレビに一日中かじりついていました。エライことですね。アメリカの旗だけじゃなく地球人類の旗を立ててくればよいのにね。アメリカも大きいようで根生がせまいね。宇宙の広さをアメリカという小さなイメージに転化させようとするのは悪ですね。では、また。

'69 7月22日 リスボンキャンプ場にて

△左ポルトガルの新聞より▽



NAKANISHI (pintor e nómada)  
EXPÕE EM PORTUGAL  
QUADROS DE EXPRESSÃO EUROPEIA

Virgem e Anjo



Os portugueses são gente muito simpática

Enquanto esteve em Lisboa, o pintor japonês fez um estudo da vida portuguesa e da sua sociedade, e mostrou de

ヨーロッパひとり旅(下)

# ローマから 香港へ

小泉 康夫

△木誌編集長写真も▽



## ★世界の都ローマ

ひとり旅の最終コースはローマから香港となった。ローマは古都である。古都といってもその遺跡の多い十重、二十重に織りこまれた歴史の物語が息づいている。たづまいは不気味なほどである。

ローマではほんの一滴であったために、それこそただいちべつしたに過ぎないわけである。それでも、三、〇〇〇年の歴史のいいしれない重みに圧倒されて、一種異様な錯乱があった。

都会というもののもつ独特の華やかさ、それに得体のしれない混乱。そんな意味では、恐らくローマは世界第一の都会なのであろう。

## ★ローマの古代の遺跡

フォロ・ロマーノには完全に二、〇〇〇年の歴史をそのままに残して巨大な風化された姿を見せる。

おおい雑草のあいだに突き出しているその石柱や右の建造物を仰ぐとうそ寒い戦慄が押し寄せてくるようだ。

この豪壮なローマの遺跡を三々伍々に見ている観光の人たちの胸のうちにも恐らく同じ

## ▲ローマのコロッセオ

思いがあるだらうと思った。

永遠のローマの象徴といわれているコロッセオも驚ろくべき遺跡である。この一大円形劇場は収容人員五万人という巨大なスケール建築物で、四層の観覧席の形がそのまま残されている。そのまわりを見物している人たちが小さい人形のように見えている。

このコロッセオにフォロ・ロマーノに帝政ローマ時代のローマの実力をまのあたりに見る思





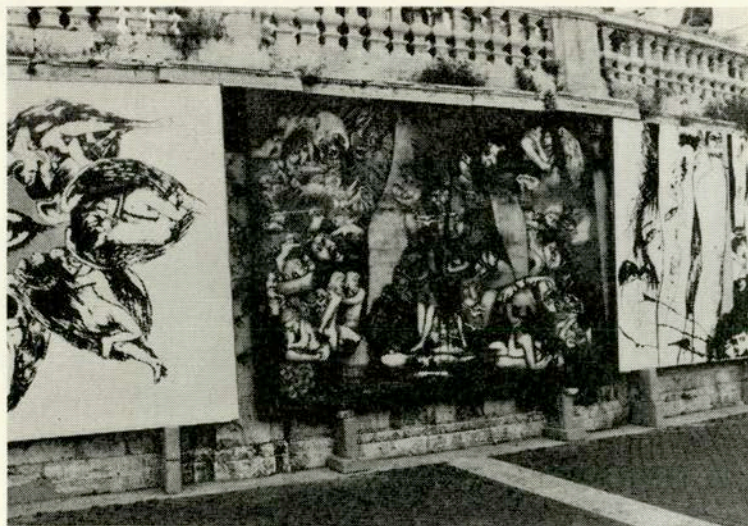
いがする。

これらの遺跡から古代のローマ市民のどよめきが、そしてローマの支配者たちの甘美な生活の葛藤が浮んでくるようである。

「世界の道はローマに通ず」という言葉がそのまま生きてくるような遺跡なのである。

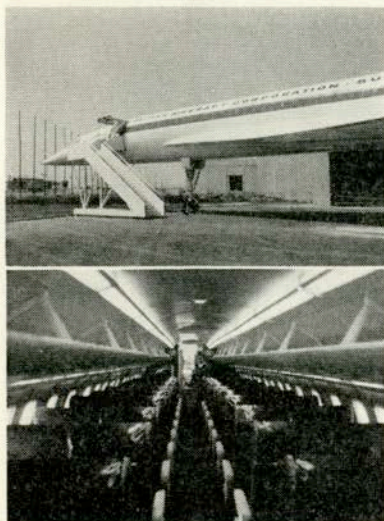
#### ★感覚いいイタリア

スペイン広場といえば花に包まれた階段のあるところと思っていたが、その広場には花はひとつも見当らなかつた。だがこの広場に芸術家風の若者たちやフーテンらしき若者たちの広場になっていて、階段を登りつめたところに抽象風の現代絵画を三点並べて、デモンストレイ



▲スペイン広場に並んだ絵

▼コンコルド0001と寄席



ションをやつていた、かなりきわどい凶柄のものだが、ちゃんとしたもので面白かった。

そしてこのあたりにはいい店が多い。ローマのショッピングの拠点にもなっている。ローマにはいい商品が多い。そして、その色彩、デザインの鮮やかさはフランスをしのいでいる。この感覚の素晴らしさは現代のイタリアの力をしめしているし歴史の豊かさを物語っている。

#### ★東洋のダイヤモンド香港

テヘラン、バンコックを経て香港に降りたつと、たちまちに東洋のやわらぎに包まれてしまう。香港は東洋の代表的な都市にちがいない。

香港島と九龍サイドに分けられる。香港ではもつぱら観光バスにお世話になる。九龍側の中心街にあるミラマホテルに投宿する。香港の港が見渡せるいいホテルである。香港では、観光客が一番沢山きているのはアメリカ人であつたのが現在では、アメリカの観光客の数と日本の観光客の数がほとんど変わらないほどだという。

なるほど日本人客が多い。ひとり旅も気楽でいいが、やはり二週間近くなるとどうしても退屈してくる。

ちようと、ミラマホテルの近くに聯邦宝石行という店をしている蔡君に香港を案内してもらつたため香港は大いに楽しめた。彼は日本語も達者だから言葉に不自由し





▲香港の哀愁せまる風景

た限りでは香港の哀愁が身にしみた。豊かな香港と貧しい香港の差のひどさ、香港の海上生活者の凄まじいほどの貧困、山陰などにある亡命者たちのあわれな生活をまのあたりに見て胸がふさがる思いであつた。香港夜景は東洋のダイヤモンドというニックネームをもつていうが祖国なき市民の哀しさがどれほどのものか旅行者の私には殆んど想像がつかない。

なかつたためでもある。旅先での親切ほど有難いものはない。

香港の楽しさはショッピングなのだ、香港は街全体がフリー・ポートになっているから世界中の商品がなんでも揃っているし、税金がかからないから現地で買うのとほとんど変わらない値段で手にはいる。しかし、パリやローマの特産商品はそれぞれの街で買った方が安いし、商品も豊富である。残念ながらデザインを吟味して買う楽しみは香港ではあまり期待できない。

香港のもうひとつの楽しみは中国の味覚である。

蔡君は香港の中国料理にもくわしいので、いろいろな料理を楽しむことが出来た。とくに北京料理のうまい店が蔡君のお父さんの方氏とともに開んだ晩さんの味覚は最高だった。香港では多少旅の疲れもあったし、ひとり旅の気易さも手伝つてのんびりとしていたため、見残したのも多い。が、香港での旅で香港と九龍側を一巡し

★コンコルド・0001

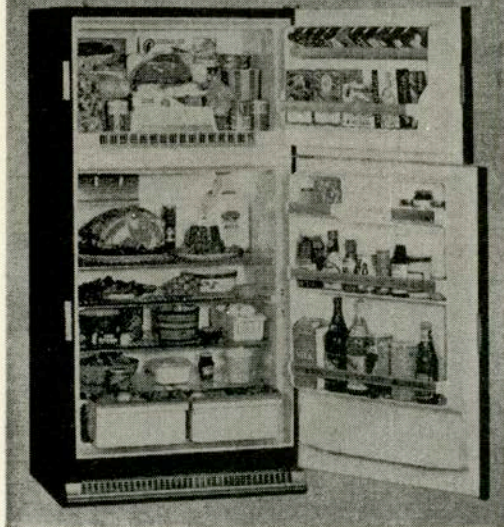
こんどの旅で各国の空港をいろいろな角度から見る機会を得たこともひとつの収穫であつた。

面白かつたのはオルリー空港でコンコルドS・S・Tに搭乗したことである。もっともこれは実物と寸分違わぬ模型機なのだ。これが空港に見物出来るようにしてあるのが心にくいところ。政府の上手なP・R作戦なのだからところが意外にこの見物多少高くついた。確かに入場料が(350円)かかつたのだ。これにはマイッタ。

現在、コンコルド001号機はフランスで、002号機は英国で開発製作している。そして、英国の皇太子の立太子の日に記念飛行を行なった。英国から飛んだのは凱旋門の上空を飛んだという。私もコンコルドがジェット機を従えてオルリー空港の上空を飛ぶのを見たが、いよいよSST時代が来たと感動した。

GENERAL  ELECTRIC

水屋兼用になる  
大型冷蔵庫  
特約販売中



輸入家庭電化製品 輸入電化製品の  
神戸唯一のGE特約店 修理も致します

リイチ産業株式会社

三宮・トア・ロード TEL33-8673





ピッツァ料理 & サラダ



女性チーフ求募 給 4.5万

苜屋の高台  
**苜屋ガーデン**

TEL (0797) 33-1025

人間味あふれた  
手づくりの美しさ...



インテリアの



**不二屋**

ショールーム 神戸市生田区三宮町3丁目5番地  
(トア・ロード) 神戸 (078)39-0535(代)  
葺合工場 神戸市葺合区旭通1丁目10番地  
小東山工場 神戸市垂水区多聞町小東山975ノ1

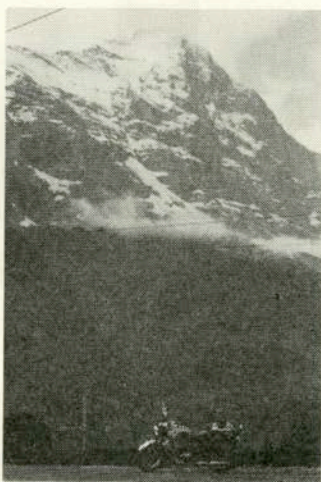


大通りに面したホテルの二階の部屋からは、赤い屋根と白壁の家々が青空に映え、ロバに引かせた荷車に、花や野菜、パンを積み石畳の路を忙しげに動き廻る朝の商人達、市電等、米国の合理的な風景と違うヨーロッパの落着いた美しさのあるリスボンの風景が見渡された。船が深夜に着いたので、翌朝港にオートバイを受け取りに行くくと、船と共にナポリに向けて航していて、ナポリまで飛行機で

## ●Try your chance オートバイ旅行記

(5)

大 迫 嘉 昭



服を全部盗まれて困っている東京のヒッチハイカーに会った。バルセロナからマドリッドに入る。ピレネ山脈は夏とはいえ冬のような寒さで、ホテルもなく、寝袋の中で震えて夜を明し、フランスに入る。ゼネスト中でガソリンも買えないのではないかと思つたがパリに入ると平静にもどつていた。英国、左側交通と上品ぶつた英語に悩まされた。オランダの田園を走ると、飛行機旅行では味わえぬ

ロ程鉄条網がはってあり、西独への亡命者に神経をとがらしている様子。トラクターで田を耕している東独人親子が一日一本西独行きの汽車であることを知っているのか手を振っているのが印象的であつた。

北欧では、新聞ダネがないのか何度も記事にされた。ウイーンからチエコに向う途中、ソ連軍チエコ侵入を知らされ、引き返しスイスに向う間アウトバートを東へ走る何百合もの西独戦車を見た。

マツタホーンの麓の町、ツエルマツトで、イランに地震が起り、コレラが発生、国境を封鎖したとのニュースを中近東を廻つて来た日本人に聞き、封鎖の解けるまで、約一カ月間、日本から来る若者達とマツタホーンの近くまで何回も登山したり、牧草地でギターを弾いたり楽しいスイスの生活であつた。

これら日本の若いヒッチハイカー達は「横山ノックが参議院に当選した」とか「今コント55号に人気がある」等と日本のニュースを運んで来るのであつた。

行かなくてはならない羽目になつた。ナポリの町は「ナポリタン・フラッグ」といわれる有名な、狭い路をはさんで紐に洗濯物が犯濫し、ナポリを見たら死ぬ気どころか、二度と来たくない程汚いところであつた。ローマ、フロレンス、ピサを通り、モナコ、ニースへ行く。地中海の観光地も俗化して居り、車も動けない程の混雑で、須磨の海水浴場の方がまじのように思える。ニースの海岸で、

旅のよさがあつた。飛行機でベルリンに行き、東ベルリンに入る。東独を通る汽車には、西独への亡命を防ぐために西独人は六十五才以上でないと乗れないので車内は老人ばかりであつた。途中で、七、八人の東独兵が自動小銃を構えて、一人一人パスポートを調べに来た。駅を通過する時は猛スピードで走る。駅には番犬を連れ、自動小銃を持った東独兵が二、三人立って居り、駅の両側は約一キ

写真  
雄峯マッターホルンを背景にした私の夢  
するオートバイは次の街へと私を促す

CINEMA

## 愛のかたち



映画評論家

淀川長治

&lt;42&gt;

二人を何となく近づけて、やっぱり本当にルシルがアントワンを愛し始め、ついに五十男を捨てる。捨てるのだが、働いて食っているアントワン、その小さなアパートそのうエルシルまで動めに出て、けっきょく妊娠して、その子供をおろす金に困り、これをおめおめとシャルルに借りに来て、あれやこれやで、とうとう女はアントワンに置手紙を残して、もとの五十男の豊かな生活のもとに戻る。

ずいぶん勝手な女の話なのに、見ていて、なんとなくルシルが可哀想みたいになる。これがサガンの小説の魔法なのであろう。けれどもこの愛のかたち、春から始まり冬に終わるそれには人生の季節の哀感までしみこんで、見とれてしまう。

よく五十男がこんなことを言う。僕は妻を僕という池の中の金魚だと思っているんだよ。どこへ泳いでいったって、けっきょくは僕という池の中にいるんだからねえ憎い言葉だし嫌な言葉だが、男のたのもしさと哀れさの二つが同居していて、妻君を愛しきっているその弱さに逆の強さが生まれていて面白い。

イギリスの女の小説家の書いた「ミス・プロディの青春」という映画の愛のかたちは奇妙である。奇妙だけれども女の意地悪さと弱さと強さが出ていて勉強になる

フランス映画が、やはり巧い。フランソワーズ・サガンの小説は、いつもぜいたくな涙の宝石でこの愛のかたちを飾る。それをフランス映画が頂くと、いかにも巧い。「別離」は三十女のルシル（カトリーヌ・ドヌーブ）が、まるで少女みたいなのに、五十男の大金持ちの実業家シャルル（ミシェル・ピコリ）に豊かに愛されている。このルシルが遊びの集会で若い美青年これも三十男のくせに少年みたいなアントワン（ロジェ・パン・オル）を見た目つき、またアントワンがルシルを見た目つき。二秒くらい。その瞬間は、すぐ去ったのに、五十男のシャルルは、二台の車を用意して自分たち仲間五人で一台、あとの一台にならげない様子で、さらっとした様子で、ルシルとアントワンを乗せる。そして次のクラブで、五十男はその二人の反応を、これまたならげない表情でニコニコと、内心はこわごわで、見守るのである。そのくせ



「別離」カトリーヌ・ドヌーブ、ミシェル・ピコリ





「ミスブロディの青春」  
右マギー・スミス 左ゴードン・ジャクソン

時は昭和の初めごろの一九三〇年代。スコットランドの女子高校の美しい女先生ブロディ（マギー・スミス）は、教室でセックスの話まで平気でしゃべるので生徒には受けがいい。この先生、妻のある漫画の先生を愛している。その漫画の先生も彼女に夢中である。それでモデルになってくれとブロディ先生に頼むと、私よりあの子がきれいでスワと級の中の美人生徒をモデルにさせる。しかしその絵がいつもブロディの顔であるのも知っている。この学校にはこのブロディ先生を愛しているもう一人の金持ちの音楽の先生がいる。妻もないこの先生はお人良しの善人型。ところがブロディは漫画の先生につきまとわれて、こんどの日曜日に無理に誘われて困っていると嘘をつき、それで、あなたの田舎の家に招待のあなたから私への手紙を下さいな、そう音楽の先生に頼む。音楽の先生は大喜びである。それでブロディはその音楽の先生の田舎の家へ行く。しかし、三人くらい生徒をわざとつれてゆく。このブロディの……愛のかたちは、男の愛をためすことと男をじらし苦しめ、その反応を見ることで、自分の将来の安全の念をおそうとする。これでは男は待ちきれない。けっきょく漫画の先生からも音楽の先生からも、見放された……というよりも二人がブロディを、あきらめてしまう。実はブロディは、あきらめ

るようにさせることに酔っているウヌボレ女でもあった。けれども、もう一つその奥ではどこまで自分について来てくれるか、その愛をたしかめようとする必死の根性。お気の毒であるが、これをオールド・ミスの愛のかたちと私は見た。

もっと悲しい愛のかたちもある。アメリカ映画の「軍曹」という兵隊映画は、中隊の曹長（ロッド・スタイガー）が部下の美青年の一等兵（ジョン・フィリップ・ロー）を思いつめる。一等兵には美しい愛人がいる。フランス娘のその女と一等兵が相抱く姿を見ながら酒をガブ呑みする。しまいいには耐えきれなくなって、君が好きなんだよ、ほしいのだよと酒の乱れにのって接吻する。男と男が唇を合わせて接吻したアメリカ映画はこれが初めてだった。これはどうにも仕方のない愛だった。しかもその接吻は部下や仲間の見ている酒場でおこなわれた。一等兵は自分の手で自分の唇をふいた。あくる朝、それは秋の森が黄色く赤く美しい朝だった。その森で軍曹は自殺した。



「軍曹」 ロッド・スタイガー（右端）

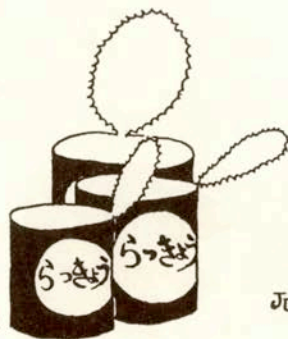
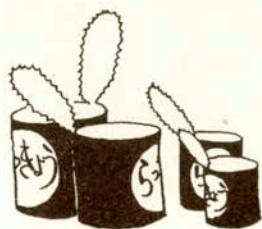


シリーズ コミックス

かんづめをあける!

その3

岡田 淳



JUN

(らっきょうのかんづめ)





動物園飼育日記 — 40 — 亀井一成

バンビ誕生す



生後二十六分、自力で立ちあがった



不安げに首をのぼすように垂れ下げ、じっとしていた一頭のメスジカが、朝から、そわそわ運動場を小走りに回りはじめた。

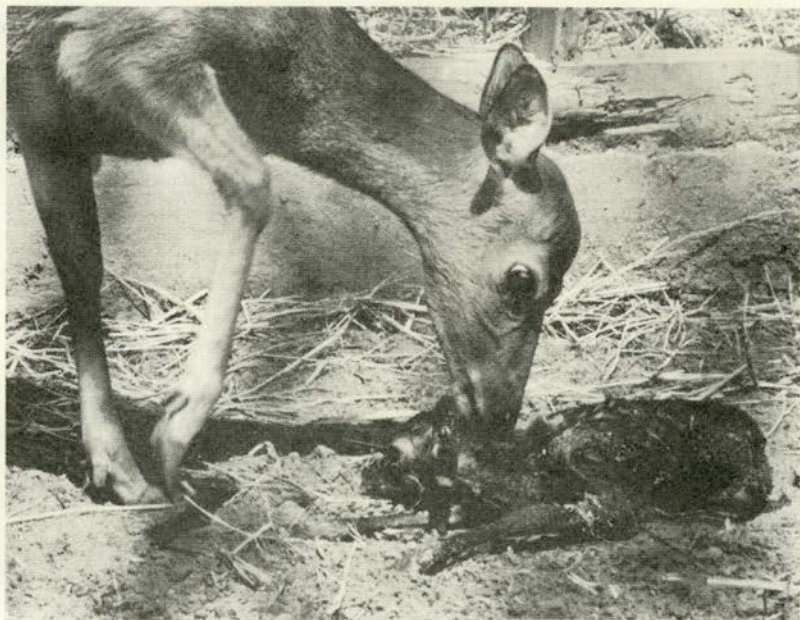
ふと見たとたん。水のうがだらりと下がり前肢の蹄が見え始めていた。分娩が始まっている。すは一大事、と第一発見者である園内清掃員のおばさん連七、八人が、急を知らせてきた時には、入園者の多い午前十一時、シカ舎は、すでに黒山の入だかりを作っていた。

もちろん担当の安福、竹田、飼育係員も人だかりの中に顔を揃え始めたばかりの出産を見守っていた。

徐々に起る陣痛は漸次強烈となり、小走りのメスジカは急に立ち止ったかと思うと、うずくまるようにゴロリと横たえ激痛に耐えている。時として四肢を中空に突つ張りケイレンさえ見せる。

しかし、露見した前肢が幾分長く露出した程度で、いつこうに分娩は進まない。ひと呼吸おいたあと、またそのメスは立ちあがり、そわそわ歩く。群のオスもメスもが時折り露見しはじめた前肢を鼻でかいている。と、また小走りに小屋の横にもどってきたそのメスがゴロリと横たえた直後、激しい怒責を見せる。周期的に起る陣痛の強さが私の目に止まる。しかし、外見的には

生まれたばかりの子ジカはまだ起きあがれない(生後二分)



進まない。

「何とかしてやらないと親も仔も、だめになる肩がひっかかっているのだ」と、いかにも、もっともらしいおばさん連の声がとぶ。同調する入園客からもうるさい注射が出はじめた。

「何回もくり返し横たえあれほど四肢を突張っても一向に進まない出産は、難産だ。動物園の人は何をしているのだ」人間と言うものはおかしなものである。さわがれ、ヤジられると、つい自信に動揺を起させ、さわぎのムードに吞まれてしまう。

さらに、休むことのない時間の経過と共に、そのメスは、もう起きあがらなくなつた。

人のいい係員の中からも「何とかした方がよいのでは」とささげう。

そこで私は、ヤジ馬のあまりにもうるさい発言を制する意味も含めながら、まちがいに、正常分娩の経過であることを説明してはさわぎを静め続けた。

分娩開始後二十八分、といえは大変な長さに感じさせたが、遂に強烈な怒責のすえ係員の敷つめた「わら」の上から少し離れた土の上に羊膜に包まれた仔が産み落とされた。

みんな。だれもが息をこらしてひと口も聞かない。羊

水に濡れ黒く光るその新生児が全く動かないからである。まだ呼吸が始っていないのだ。一〜二秒の一刻が長く感じさせる。しかし、次の瞬間濡れた体にケイレンが現れたかと思うと、大きな腹式呼吸が始まった。耳も動かせる。あつ／＼やはり生きていた。遂にパンビが誕生したのである。

さきほどのヤジ馬連の声も、祝福のため息に変わっていた。

しかし、私たちに  
とっては、むしろ、  
出産後の授乳が最も  
不安なのである。

しばしば繊細な野生動物は、寄り集ったヤジ馬連のさわぎに狂ってしまい、せっ／＼わが子に授乳さえさせないのだ。

不運にも土の上に生み落された子ジカは、まるで泥だらけしかし、それをけんめいに舐める母性は実に安心できた。とその時また、誰かが

「体を拭いてやっては」などといってきた。  
私は、遂にがまんできなくなった。今、親心的な人の介添を不用意に行うことは、生れたばかりの子ジカにとっては死さえ意味するからだ。

出生直後の親と子が触れあう、ひとつひとつに本能的な行為が見られる。

母親は子ジカの包まれた羊膜を残さず喰い羊水に濡れた子をけんめいになめ続けながら、わが子への愛を知る



のだ。

子もまた生後初めて触れる母親の臭いとやはだの感覚を記憶し、生後二〇〜三〇分で起きあがったあと、その初めて触れ記憶した母の臭いと触覚をたよりに乳探りを始める。

もし、その本能的な、生後初めての触覚体験が、親のはだよりも先に、布きれやヒトの手であったなら、その子もはや母を求めずヒトを求め、遂には親から全く離れさえする。親もまた同様、産んだわが子を敵視し、大低の場合、乳を与えないまま死なせてしまうのである。

だから、野生では出産が近ずくと、その群からある程度遠ざかる。ところが限られたせまいオリの中では逃避することもできないため思わぬ失敗をまねき全く授乳させないという哀れな事態が起る。

「やはり見守ってよかった／＼」。生後

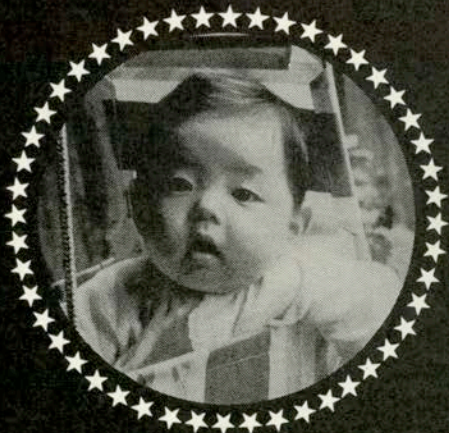
僅か四〇分無心に母の乳房にすがりつく、すばらしいパンビの可愛さに、みんながそう思ったにちがいない。

△王子動物園飼育係、写真も▽

▶写真は初めて乳をのむ子ジカにやさしいまなざしを投げかける母ジカ



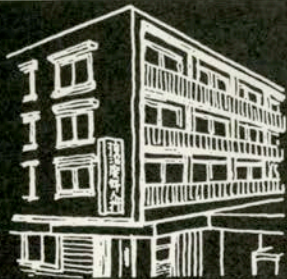
こんにちは赤ちゃん



芦屋市・池田正和ちゃん

完全看護★冷房完備★病院前駐車可能

芦屋 柿沼産婦人科



芦屋市大栴町9番地  
国道芦屋川電停東50米(明治生命南)  
☎ 芦屋 (0797) 31-1234 代表

服部のオリジナル**サングラス**

ユニークなデザインの  
イタリア製豊富取揃



- \* 光の量に応じて色の濃さが変わるレンズ  
ニコンフォトグレー大好評発売中
- \* 度付サングラスが30分で出来ます
- \* ドイツカールツアイツ・ローデンスト  
ック社製新型フレームが揃っています。

★

顕微鏡・天体望遠鏡・航海計器・光学器一般

**服部メガネ店**

神戸・大丸前 TEL 33-1123